【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成22年1月7日(2010.1.7)

【公開番号】特開2009-125356(P2009-125356A)
【公開日】平成21年6月11日(2009.6.11)
【年通号数】公開・登録公報2009-023
【出願番号】特願2007-304283(P2007-304283)
【国際特許分類】
Ａ４７Ｊ　27/21　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ４７Ｊ　27/21　　１０１Ｋ
Ａ４７Ｊ　27/21　　１０１Ｊ

【手続補正書】
【提出日】平成21年11月13日(2009.11.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
筒状の本体と、該本体内に収容された内容器と、該内容器の底部外面に配設された加熱手段と、前記内容器の底部に取り付けられ、前記加熱手段と電気的に接続された上部接続器と、前記本体が着脱可能に載置され、前記上部接続器と電気的に接続されると共に電源に接続される下部接続器を有する載置台とを備えた電気ケトルにおいて、
前記加熱手段と前記上部接続器を電気的に接続する導線に温度ヒューズを設け、該温度ヒューズをヒューズ保持手段により前記加熱手段に接触させたことを特徴とする電気ケトル。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項４】
前記ヒューズ保持手段を前記内容器の底部に取り付ける際に、更に前記温度ヒューズの上端と前記加熱手段との間に前記保持部の変形代を設けたことを特徴とする請求項３に記載の電気ケトル。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
前記課題を解決するための手段として、本発明に係る電気ケトルは、筒状の本体と、該本体内に収容された内容器と、該内容器の底部外面に配設された加熱手段と、前記内容器の底部に取り付けられ、前記加熱手段と電気的に接続された上部接続器と、前記本体が着脱可能に載置され、前記上部接続器と電気的に接続されると共に電源に接続される下部接続器を有する載置台とを備えた電気ケトルにおいて、前記加熱手段と前記上部接続器を電気的に接続する導線に温度ヒューズを設け、該温度ヒューズをヒューズ保持手段により前

記加熱手段に接触させたものである。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
電気ケトルに、加熱手段と上部接続器を電気的に接続する導線に温度ヒューズを設け、温度ヒューズをヒューズ保持手段により加熱手段に接触させたことで、万一空焚きにより加熱手段が異常加熱した場合でも、温度ヒューズがヒューズ保持手段を介して加熱手段の熱を受けて溶断され、加熱手段に電気が流れることを阻止する。従って加熱手段の異常加熱を防ぐことで外郭樹脂部品が溶ける等の不具合を防止し、電気ケトルの安全性を飛躍的に向上することができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
上記構成であれば、固定部を内容器に固定すると、金属製であるヒューズ保持手段の弾性により保持部が付勢され、保持部を加熱手段に圧接することができる。従って、温度ヒューズを保持部を介して確実に加熱手段に接触させることができる。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
前記ヒューズ保持手段を前記内容器の底部に取り付ける際に、更に前記温度ヒューズの上端と前記加熱手段との間に前記保持部の変形代を設けたことが好ましい。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
本発明の電気ケトルによれば、万一加熱手段が異常加熱した場合にバイメタルが不良であっても、加熱手段と上部接続器を電気的に接続する導線に温度ヒューズを設け、温度ヒューズを加熱手段に接触させたことで、温度ヒューズが加熱手段の熱を受けて溶断され、導線を遮断し加熱手段に電気が流れることを阻止する。従って加熱手段の異常加熱を防ぐことで外郭樹脂部品が溶ける等の不具合を防止し、電気ケトルの安全性を飛躍的に向上することができる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
金属製のヒューズ保持手段は、内容器の底部に取り付ける際に、加熱手段と保持部とが当接した状態で固定部が、取付部の取付座面であって加熱手段から最遠の端部と最初に当

接する。更に、前記固定部と前記取付座面との間に前記取付ねじの締め代を設けた構成であれば、固定部を内容器に固定すると、金属製であるヒューズ保持手段の弾性により保持部が付勢され、保持部を加熱手段に圧接することができる。従って、温度ヒューズを保持部を介して確実に加熱手段に接触させることができる。

【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
ヒューズ保持手段を内容器の底部に取り付ける際に、更に温度ヒューズの上端と加熱手段との間に保持部の変形代を設けたことで、温度ヒューズを加熱手段に容易に圧接することができるうえ、温度ヒューズをヒューズ保持手段に容易に挿通することができる。